

児童発達支援事業所における自己評価結果

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			概ね児童の利用日の調整などでスペース的に確保出来ている。今後もより良い環境を探っていく必要がある。
	2	職員の配置数は適切であるか	○			職員の配置人数は満たされている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	○			バリアフリーの体制は取られている。
	4	事業所は清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間になっているか	○			清潔な環境は維持さえており、活動空間も整われた環境にある。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか		○		振り返りは会議の形で行われているが、それを共有する形がなかなか難しい。業務の中でも職員同志の声掛け確が有効になる。
	6	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			今までのリトムや今後のライン等の通信主手段を活用しつつ、今回のアンケートも踏まえ、保護者の声を幅広く汲み上げ、業務の改善に取り組んでいます。
	7	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			ホームページで公開になっている。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			○	第三者評価はまだ行っていないが、今後の課題である。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			研修はテーマを決めて職員に告知して、毎月行っている。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○			児童のストレングスを中心に児童や保護者のニーズを把握分析して個別支援計画に盛り込んでいる。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか		○		アセスメントのツールは標準化されていないが、今後の課題である。
	12	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○			細かく情報を収集し、アセスメントやモニタリング面談を通じて個別支援計画を立案して内容に沿った支援を展開している。
	13	活動プログラムの立案をチームで行っているか		○		活動プログラムは趣向が凝らされているが、チームとして立案していない。今後の検討の余地がある。
	14	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			活動プログラムは趣向が凝らされている。今後も検討の余地がある。
	15	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			平日や週末、長期休暇の課題や活動など、予め職員間で意見を出し合い決めている。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成しているか	○			個別活動はそれぞれの個別支援計画にも照らし合わせて支援しながら、集団活動では参加することでルールやナーなどを子ども達に学んで貰っている。

	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			支援開始前には、必ず打ち合わせの会議をし、支援内容や流れなどを確認している。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			送迎から戻って、必要に応じて管理者を中心に会議が行われ、その内容は共有事項としてノートに記載される。
	19	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか		○		記録は検証され、個別支援計画の立案にも取り入れられている。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○			アセスメント・モニタリングは行われている。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加しているか	○			参加している。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○			保護者は元より必ず情報の共有は行っている。
	23	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、地域の保険、医療、保育、教育等の関係機関と連携をとっているか	○			看護師が常駐してらず、医療行為が行える環境環境になく、受け入れ態勢にない。
	24	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	○			看護師が常駐してらず、医療行為が行える環境環境になく、受け入れ態勢にない。
	25	移行支援として、保育所や幼稚園、認定こども園等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○			保護者は元より必ず情報の共有は行っている。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互の理解に努めているか	○			保護者は元より必ず情報の共有は行っている。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し助言や研修を受けているか		○		現在はその環境にないが、将来的には必要である。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や障害のない子どもと活動する機会があるか			○	現在はその環境にないが、将来的には必要である。
	29	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか		○		現在はその環境にないが、将来的には必要である。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			リトムやラインなどの通信手段を通じて状況を伝え、必要に応じて相談に応じる形を取っている。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか		○		はっきりとした形としてのペアレントトレーニングは行われていないが、管理者の相談アドバイスがペアトレの役割を担っている。
	32	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか		○		行われている。
	33	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			リトムやラインなどの通信手段を通じて状況を伝え、必要に応じて相談に応じる形を取っている。

保護者への説明責任等	34	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○			リトムやラインなどの通信手段を通じて状況を伝え、必要に応じて保護者同士の連携を視野に入れている。
	35	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			行われている。
	36	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			行われている。
	37	個人情報に十分注意しているか	○			十分に配慮している。
	38	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			きめ細かい配慮を心掛けている。
	39	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか			○	今のところそのようなことは考慮されていない。
非常時等の対応	40	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○			いわゆるBCPマニュアルとして災害対策、避難訓練や感染症対策などに力を入れている。
	41	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			いわゆるBCPマニュアルとして災害対策、避難訓練や感染症対策などに力を入れている。
	42	事前に、服薬や予防接種、てんかん等発作等のこどもの状況を確認しているか	○			初回のアセスメントやインテークにててんかんや対処、服等は把握して支援している。
	43	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○			児童の食物アレルギーは初回インテークの段階で把握し共有している。
	44	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			共有している。
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			研修はテーマを決めて職員に告知して、毎月行っている。その中でも虐待研修は拘束防止と共に力を入れている。
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○			場合に応じてやむを得ず身体拘束を行うかについて組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している。またその際には期限を定めるようにしている。

